

265 号

7 月例会のお知らせ

日 時 : 7 月 23 日 (土) 19:30~
 場 所 : 府中町屋倶楽部
 内 容 : 「由利公正って知ってるかい？」

講師 福井市立郷土歴史博物館 館長
 角鹿 尚計 氏

「幕末から明治初期に活躍した由利公正(三岡石五郎義由・三岡八郎義由 1829~1909) は庶民の生活の向上と日本の近代化に向けての改革を驚くほど多彩に精力的に推進しました。今脚光を浴びる彼の波乱に満ちた 81 歳の生涯と業績を振り返ります。(角鹿)」

■今年も世の中では新暦の7月7日に「七夕まつり」が行われ、TV ではここ数年七夕の夜に天気が悪いことを頻りに託っていました。いい加減に「これは無理に新暦で七夕を考えているからだ」と、TV でも言ってほしいものです。昔は年中行事を行う中で特に重要とされた日を五節句として、この日には農作業などの仕事を集落全体で休んでいたようです。五節句とは、「人日(じんじつ)・正月七日」、「上巳(じょうし)・三月三日」、「端午(たんご)・五月五日」、「七夕(しちせき)・七月七日」、「重陽(ちょうよう)・九月九日」の五つです。これらはすべて旧暦の日になり、今年の新暦では8月9日ということになります。その2日前の8月7日が二十四節気の「立秋」にあたります。つまり七夕は夏と秋との交叉の祭りともいえます。これで、「七夕は秋の季語」ということが納得できます。立秋過ぎの空は澄み渡り、天の川もよく見られるという訳です。

■先月の例会、五月の月見は素晴らしい夜でした。夕方は雨模様でしたのに、10 時近くになって空が晴れ、雲間からくっきりとした十五夜が顔を出してくれました。以前に弄庵で中秋の名月を見た時と同じような状況だったのには皆感動を覚えたほどでした。弄庵ではザリガニ

が獲れなかったのですが、会員の水中写真家田口さんが味真野苑の上のきれいな小川で大きいアメリカザリガニを捕獲してきてくださったので、初めてその味を味わえました。「まるでエビ。美味しい」これが食した者全員の感想でした。

筵に座り、コンロに炭をおこしての様々な食材を焼き、酒を酌み交わし、三味線と尺八を伴奏に手拍子で民謡などを唄うという一時代前の宴会は、日本人ならではのもので、これからも伝えていきたい文化だなと、思いました。

■今月の例会は上に書きましたように、角鹿さんに、ごつくばらんに由利公正の話をしていただきます。明治維新から丁度 150 年目にあたる平成 30 年の NHK 大河ドラマに由利公正をと、今福井県が躍起になっています。ドラマの制作発表は2年前にされるのが常らしく、福井県の取り組みは今年が山のようです。

先達ての NHK・E テレ「先人たちの底力 知恵泉」では「みんなの心をつかむ突破力—経済の達人・由利公正」として紹介されていました。明治4年の廃藩置県後に初代東京府知事となった由利公正は大河ドラマに取り上げても耐えられるだけの話はあるようですが、何もかもが立派な人になる懸念は禁じえません。